

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・地域に溶け込めるように、「地域の人々の生活に馴染んだサービスの提供」を運営理念に掲げ日々努力している。 ・地域の社会資源の一つとして自覚し、地域の方々の生活、文化、風土を尊重し、地域に貢献していきたい。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・全体会では、必ず全員で理念の唱和をおこない、意識の高揚をはかっている。 ・職員が介護の判断を要するときには、理念を基本に考えられるように施設内の要所に理念を掲示しそして意識づけをはかっている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・パンフレット、ホームページ、契約書に理念を掲げ家族や地域の病院、公共機関などに理念浸透を心掛けている。又、ホームのイベントや、各種行事の際には、理念を含めて案内をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・夏祭りでは、地域の方々に参加して頂いている。 ・利用者の方々と散歩時には、近隣の方々と農作業をされている方との挨拶を心掛け、いつでも見学や遊びに来て頂けるように案内を心掛けている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・買物については、地域の商店やスーパーを利用し顔なじみになっている。 ・地域の民生員協議会・福祉関係施設の方々などたくさんの方々が見学や勉強会で来られている。又、ボランティアは出来るだけ近くの方々をお願いしている。	○ ・地域の老人会や地域の民謡教室の方々などにイベントに参加して頂いた。又、参加して頂けるとの事だった。 ・地域消防団の方々と天災・火災時などの協力をお願いしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・福祉専門学校などと連携を行い、ボランティアや自主実習の受入れを行っている。来年度より介護福祉士養成校の実習施設になる予定である。 ・地域の方々からの、介護についての相談を受け入れる準備がある。(他施設等の紹介もできるようにしてある)		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価を職員一人一人で行い、外部評価の結果を全体会にて話し合い意志統一をはかっている。 ・今後のサービスに生かしていきたいとの事だった。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・現在、2ヶ月に一度程のペースで開催しサービスの向上について検討し、維持向上をはかっている。 ・行事やその時の出来事、ケアについて報告・連絡・相談をおこなっている。助言やお手伝いを頂き運営に役立っている。	○	・多方面からの運営推進会議の参加をお願いし、これからもサービスの向上に繋げていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・介護長寿課の担当者の方と、情報交換を行ったり、相談事に乗って頂き日々サービスの向上に反映させている。 ・他関連福祉課への挨拶も欠かさないようにしている。 ・説明会や研修会には欠かさず参加している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・介護福祉士・社会福祉主事等がいるので、全体会を利用し勉強会をおこなっており、研修などでの理解を深める契機になっている。権利擁護マニュアルを作成し閲覧出来る所に置いてある。 ・該当する利用者がおられる時には、すみやかに支援する準備がある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待はありません。 ・虐待防止マニュアルを作り、職員への理解を求めています。 ・危険を回避する時の拘束が必要な場合は、医師との連携のもと同意書に基づき家族に説明・理解の上、記録に残すようにする体制が出来ている。 ・内部・外部研修にも参加し職員の意識向上をはかっている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約に関しては、入所までに何度か自宅や病院、利用されている通所サービスなど訪問し、十分な説明をおこない、理解・納得してもらっている。又、契約時には運営者、ケアマネよりそれぞれ契約書・重要事項説明書を元に再度くわしく説明を行っている。 ・疑問点は、いつも受け入れ解消できる体制にしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・今年度より、介護相談員の方に来訪して頂き利用者の方々の相談事に乗って頂いている。 ・ホームの玄関に苦情相談ポストを設置している。 ・日常の利用者の苦情に対しては、いつでも対応出来るようにしている。 ・家族と外出した際の話の聞き、対応している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・「くるみ通信」を2ヶ月に1度程のペースで発行し行事や生活についての報告を行っている。 ・家族が来所された時には、常に状況報告をおこなっている。 ・緊急時には、電話にて連絡をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・重要事項説明書の中と玄関に、相談・苦情窓口を明示している。 ・家族がホームに立ち寄った際には、管理者・計画作成担当者・運営者が話をよく聞いている。 ・不満・苦情があった場合には、全体会で話し合い運営推進会議に報告する準備がある。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員の意見や提案を尊重し、検討を重ねて実践に反映している。 ・運営者が、必ず全体会に参加している。	○ ・これからも、職員一人ひとりの声が反映できるように、面接など意見が言いやすい環境づくりを心掛けていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・人員や時間帯に余裕を持って勤務表を作成している。 ・勤務表作成時には、あらかじめ職員の希望を聞き出来るだけ希望に沿った勤務表を作成している。 ・非常災害や不測の事態に対し運営者と近隣職員がすぐに対応出来る環境にしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・離職される時には、新しい職員を前もって配置し全職員と同じ勤務に入って頂き、引継ぎを行いダメージを防ぐようにしている。 ・現状、異動はないが急に行うのではなく、前もって説明し事前勤務や移動後の職員紹介をするなどの配慮をする準備がある。利用者の心理的障害を最小限にできる配慮をしている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他施設と連携をはかり、職員の研修などを行っている。</li> <li>・研修において、受講資格のある職員は積極的に受講して頂き、全体会にて研修報告を行っている。</li> <li>・担当者会議を活用し、利用者の介護を通して日々トレーニングを行っている。</li> </ul>	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホーム協議会・介護支援専門員連絡協議会に常に参加し、他施設の方々と交流の場を広げるようにしている。</li> <li>また、外部施設と施設交流をさせて頂き職員同士が情報交換をおこなっている。</li> <li>・同業者の方々が、気軽に施設見学をしやすいようにし情報交換と交流を行っている。</li> </ul>	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悩み事など、社長・施設長・事務長に相談しやすい環境を作っている。</li> <li>・休憩室には冷暖房を完備し音響設備を置くことでリラックスして頂いている。</li> </ul>	○ ・今後ともに、職員が働きやすい環境作りを考えていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に社長・施設長・事務長は職員と話し、感謝と激励の声掛けを欠かさずしている。</li> <li>・実務経験・受験資格がある職員に対しては、資格取得を進めている。</li> <li>・職員の業務上の有益な提案に対しては積極的に取り入れる体制にしている。</li> </ul>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学の段階から、可能であればご家族と利用者が一緒に見学に来て頂いている。</li> <li>・入所前の面接で、利用者本人に困っていることを聞くようにしている。本人から情報が難しい場合は、家族・利用施設、担当ケアマネージャーから話を詳細に聞いている。</li> <li>・家族と利用者が利用の意向を一致出来るよう支援している</li> </ul>	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困っていること・不安なことなど希望を家族とあったり、情報交換を行いホームとして対応が出来ることを話をさせて頂いている。</li> <li>・入所の意向が固まったら、入所前に契約に来所いただき、時間をかけて話しあっている。</li> <li>・家族会に入会して頂き家族同士での話やすい環境作りを支援している。</li> </ul>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・介護サービスを利用された事のない方には、介護サービスについての話をした上で近くの在宅支援センターを紹介している。 ・家族の話を聞き、緊急性や希望されている内容に応じて、適切なサービスや施設紹介をしている。 ・本人と家族が不安を解消するような支援をしていきたい。	○	・今後とも、当事業所だけで抱えこまないようにしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入所時に本人と家族に来所して頂き、ホームの雰囲気等に触れてもらい徐々に慣れて頂けるように工夫している。 ・個人の情報を職員が共有し、まず本人が生活に馴染むことを基本に見守り観察を行っている。 ・家族の面会等、自由に行っている。 ・他の利用者に紹介したり、職員と一緒に行動している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者本人の特技や趣味等を探り、他の利用者も職員も混えて教えてもらったりしている。(料理・編み物・縫い物・あやとり等) ・ティータイム等、テーブルに一同して同じテーマ(その時のTVや新聞の話題、戦争の話など)で話し、関連した個人の経験談を話してもらい共感したり賛同しあっている。	○	・今後も一人ひとりの可能性を見出し楽しい時間が共有できるように努力していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・利用時に、家族の協力をえることで、利用者の生活がより豊になることを話している。 ・利用者の介護に苦慮したり、体調不良時等家族に電話したり来所してもらい、協力して頂いている。 ・年末年始、お盆など家族が集まる際には、外泊・外出を積極的に呼びかけ、支援協力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・面会時間等の制限を設けずに自由に面会して頂いている。家族水入らずの時間が持てるよう居室に、椅子やテーブル・お茶を用意し本人との関係が築けるように支援している。 ・常に、面会時等に情報交換をして家族と利用者の意向を聞いている。	○	・面会の少ない家族に対しては、呼びかけをしている。年間の行事は家族の参加協力も多く楽しい時間を共有している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族とドライブにいかれた際には、ご自宅によったりお墓参りをしたり、友人宅に訪問したりしている。 ・友人や隣近所の方々の面会時には、快いもてなしを援助している。 ・県外の子供さんに便りや電話等をする事を支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・利用者同士が良い関係が築けるように、座席の配置等考慮に入れた配置をしている。 ・昼間は、全員がホールが活動の場であり職員と共に過ごしている。 ・他の利用者のお世話が好きな人も居るので安全を確認しながら、見守っている。	○	・行動障害の活発な利用者の方がいるので他利用者に危険を及ぼさないように又、本人が孤立することもありさらに環境整備と見守りが必要である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退所時本人家族の意向を尊重して、施設やケアマネを紹介して情報交換をしている。 ・退所された利用者の家族とも連絡を取り、本人の状況を伺ったりしている。	○	・今後共、退所された利用者の方や入院された利用者の方に、施設や病院などへ家族の意向を聞きながら面会など関係性を保っていききたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・家族には、入所時やプラン変更時等必ず希望を聞くことにしている。 ・本人には、理解の程度にあわせて聞いたり、日々の生活の中での発言や行動からキャッチするようにしている。 ・利用者との会話の中で得た情報を、全体会などで検討し、意志の統一をはかっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・必ず入所前に居宅支援事業所や病院などから情報を入手し事前に職員に開示し把握している。 ・入居後の生活の中で本人や家族等からの情報をうかがい追加してしている。 ・必ず、利用されていた施設又は自宅へ面接に行っている。	○	・これからも、常に利用者の生活歴や、性格を意識した介護をしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・利用者本人にとって、絶対にやってはいけないことの注意点を把握する。 ・入所前のケアマネや病院等から情報を頂き参考にしている。 ・日々の生活の中で、サービスを提供しながらその反応など含めて客観的に判断できるようにしている。	○	・個別にサービスの向上がはかれるよう、暮らし・心身状態、能力の分析をすすめ、介護計画により個別的に反映できるようにする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・入居者の情報や観察した現状、本人家族の要望を入れてアセスメント→プラン作成→担当者会議をしてケアプラン作成の手順で行なっている。 ・常にチームでの業務であることを念頭に情報の共有ができるよう介護計画の見やすさ、使いやすさを追求していく。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・月1回の担当者会議及びその都度の打ち合わせでケア検討会を行っている。プランの修正しすばやく周知できるようにしている。 ・実施は、申し送り簿に記入して介護が継続されるようにしている。 ・家族との連携を密にして、介護計画の見直しの場合には、すぐに意見が現状に反映できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・記録と実践は、職員全員が取り組むことなので介護サービスが連綿として円滑に行われるよう、職員の連携を密にしている。特に夜間の状態を十分に読み取るようにしている。 ・状況に応じて個別記録を、全職員で検討・分析し介護計画をみなおすようにする。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・協力医による定期的な往診、場合によっては急変時の往診などをお願いしている。看護師・計画作成担当者からの病院への情報提供は欠かさないようにしている。 ・利用者の不安を増強させないように家族間の調整・支援を絶えずおこなっている。		・ホームを知っていただく為にも、地域ボランティアや実習を受け入れている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・地域のボランティアの方々には、誕生日会等のホーム行事に参加して頂いている。 ・消防や警察など各機関に避難訓練や防犯の相談にのっていただいている。 ・月に一度移動図書館の利用をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・介護支援専門員連絡協議会や研修会などに参加し、情報の収集や交換を行っている。 ・利用者の心身の状態や変化に応じて家族と相談し、他の施設と情報交換をしている。 ・本人、家族からの要望に応じて他のサービスの説明・紹介をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議の案内・利用者の紹介など情報の交換などを行っている。</li> <li>・くるみ通信を発行した際には、届けて近況を報告し協力を得ている。</li> </ul>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の希望される医師へ受診されている。</li> <li>・往診も依頼している(内科、歯科)</li> <li>・主治医と密に電話やFAX情報交換をしている。</li> <li>・受診時には、必要に応じて情報提供を持参して頂いている。</li> </ul>		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・神経内科医の往診に対しては、前もって電話やFAXなどで情報を交換し、よりよい状況の把握ができ、ひいては医師との信頼関係も築けている。	○	・認知症専門医の詳しい情報を知りたい。公的な機関の支援をお願いしたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・看護師を2名配置しているので、すばやく対応できている。常時情報や意見交換を行っている。 ・協力医療機関や各関係機関と情報を共有しよりよい医療の共同体制が出来ている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院時は、職員が見舞いに出向き、病院職員と情報交換をしている。 ・医療のソーシャルワーカーや家族と連絡を密にとり状況を把握しており、早期退院を目指す体制が出来ている。 ・入退院の手続きや、受入れが円滑であるようホームでの体制を整えるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化した時の方針を決め、家族と話し合い、その同意書をもっている。 ・入居時に、家族に直接例を挙げて説明している。 ・家族会の際に、重度化や終末期に向けた方針について話し合い、理解をして頂いている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・現在、当ホームでは、重度化や終末期に対応する施設機能がないので、早目の施設移動を含め、家族と話を重ねた上でネクスト・ステージへの対応を円滑に出来る様にしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・本人や家族の意向を尊重し利用者の状況や、意向に添って、心身のダメージを極力少なくするように施設や他の社会資源を紹介するなどの体制にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所時に、絶対これだけは言って欲しくないこと、して欲しくない事を家族に確認している。</li> <li>・今後とも入浴・排泄時等プライバシーを保てるよう日々職員で声掛けをしていきたい。</li> <li>・個人情報は、記録等所定の場所に保管し人目に触れないようにしている。もちろん守秘義務を徹底している。</li> </ul>	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかる力に合わせてゆっくり時間をかけて本人の自己決定を持ち、ケアをしている。そして早い動作には付いていけないので「間」をおいて誘導している。</li> <li>・利用者と職員のふれ合いの時間を多く持ち生活の中でサインを見逃さないように傾聴している。</li> </ul>	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その利用者に応じた、ペースで食事時間・入浴時間の調整など、毎日の暮らしをゆっくりと過ごして貰えるようにしている。趣味や運動などその人が満足するように支援している。</li> <li>・出来るだけ、その人の活動を低下させるような睡眠剤などの減量に心掛けている。</li> </ul>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者のみ1ヶ月に一度程、訪問美容店が来られるので好きな髪形や髪の色にされ満足されている。</li> <li>・常に、身だしなみや適切な服装を着用するよう支援している。特に髭剃り・化粧については本人の希望に沿うようにしている。</li> </ul>	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・料理や片付けは声掛けを行い、その日によって参加・不参加は自由にしてもらっている。</li> <li>・毎回食事の時間は、クラシック音楽を流したり、その時のメニューの話題を投げかけたり楽しい雰囲気作りに努力している。</li> </ul>	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10時、3時のティータイムは、牛乳・お茶・コーヒー・紅茶・ココア他その日によってメニューをかえて楽しんで頂いている。</li> <li>・お酒、たばこに関しては今のところ、要望はないが、要望があった場合には健康状態や環境に配慮しながら支援していきたい。</li> <li>・おやつ等、甘い物が好物である。</li> </ul>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・トイレで排泄できるよう、一人ひとり排泄パターンを把握し声掛けや誘導・介助を行っている。ウォシュレット使用。 ・便意・尿意のある人は、オムツ除去して綿パンツにしている。 ・各トイレにチェック表を用意し排尿・排便パターンの観察をおこない健康管理に努力している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・計画的に入浴しているが、本人の体調と意向により柔軟に対応し本人の能力やペースに合わせ支援をおこなっている。 ・入浴の声掛けには、笑顔で答え喜んで頂いている。又個別の入浴をゆっくり楽しんでいる。着替えの準備も、利用者専用の籠を用意し出来る方にお願ひし、難しい方にはお手伝		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・昼食後、居室にて休まれている利用者については、生活のリズムを崩さない程度で声かけをおこなっている。 ・定期的に、シーツの洗濯や、布団干しを行い清潔な空間作りを心掛けている。 ・冬場は、電気アンカをお好みにあわせて使用している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・季節によって散歩に出掛けたり庭に出たりして気晴らしの支援をしている ・毎日の家事・掃除・洗濯等に一緒に参加してもらい、話をしながら出来る事を楽しくおこなえるようにしている。 ・レクリエーションの範囲を広げるように用具を購入した。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭は、家族の依頼により事務所で預かっている。いつでも使えるという安心感を持って頂き安心されている。	○	・今後は、食材や本人の欲しい物等、一緒に買物に出掛けるなど社会機能維持が出来るように検討していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・家族との外出は制限ない。利用者の会話でよく話をされる場所に関して外出時に御家族に話をし支援して頂いている。 ・その日の体調や体力に考慮しながら、付近の散歩や神社参りを支援している。芝生を利用しておやつやおしゃべりをしている。 ・他ホームとの定期的な交流、ドライブもかねて行なってい		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・家族の支援で墓参りや遠方ドライブ等に出掛けている。 ・他ホームと交流会を楽しんで頂いている。 ・利用者・職員とファミリーレストランに出掛け楽しまれた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>手紙に関しては本人宛に届いた物は、手渡ししている。</li> <li>自分から電話を掛けられる利用者には支援している。</li> <li>外からの電話があった場合は、直接話してもらっている。</li> <li>県外の子供さんに、便りや電話等の支援を行っている。</li> </ul>	○	これから、年賀状の季節なので支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に面会時間は設けておらず、いつでも面会できるようになっている。</li> <li>家族や友人の面会時には、居室に椅子やテーブルを用意し、お茶を提供してゆっくり過ごして頂いている。</li> <li>年間の行事にも参加して頂き家族と楽しい時間が持てるように支援している。</li> </ul>		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体拘束はない。</li> <li>緊急の場合の身体拘束について、家族の同意は頂いている。</li> <li>高齢者虐待防止・身体拘束などの研修には欠かさず参加し、内部研修にて全職員への意志統一をはかっている。</li> </ul>		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>日中玄関に鍵をしていない。</li> <li>帰宅願望の強い人がいた場合には、人感センサー等の活用で、安全確認をしている。</li> <li>職員が利用者の行動パターンを常に把握し、見守りがしやすいように考慮している。</li> <li>昼間は窓を開け、換気に気を付けている。</li> </ul>		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> <li>常に職員は、入居者を視野に入れておく意識の習慣化をしている。職員間の連絡を密にして安全確認をしている。</li> <li>特に夜間はコールマットや鈴など利用したり見守りが確実に確認できる場所で夜勤を行っている。</li> </ul>		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの行動パターンを把握し見守りを重視して危険を防ぐ取り組みをしている。(危険物を目の届く所におかない。)</li> <li>異食行動が活発である利用者については、そばで見守りをしているため、早期対処できている。</li> </ul>	○	夜間は、危険防止の為洗剤・包丁・鋏等は鍵の掛かる場所に収納し確認している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの身体状況や行動をよく把握した上で、ホールに必ず職員を配置して見守りを怠らないようにしている。</li> <li>誤薬のないよう毎回担当者を決めて与薬している。</li> <li>夜間は転倒防止の為、コールマットを使用したり時間を決めて巡視を行っている。</li> <li>今年度中にスプリンクラーの設置予定である。</li> </ul>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・急変時には、協力医療機関と連携をはかり対応できるように準備がある。職員は、看護師2名・応急手当普及員3名を配置し全体会などで勉強会を行い、急変時、事故発生時の訓練を定期的に行っている。 ・マニュアルを作成し、見やすいところに置いている。 ・緊急連絡場所が明示してある。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・防火管理者を配置し、火災通報装置やIH調理器を設置した。 ・定期的に火災訓練・避難訓練などを計画実施している。 ・ハザードマップを用いて、全体会にて確認をおこなっている。 ・交番・消防署から、実施指導が受けられるようにしている。	○	・災害時の避難訓練を地域の消防団や家族会にも声かけ、協力を維持していきたい。 ・今年度スプリンクラー設置予定である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・入所時にリスクに関する説明を行ない。施設として安全・安心な暮らしができるよう常に努めている。全てのリスクで強い行動制限はしないことなども同様に理解して貰っている。 ・問題が発生したときは、利用者と家族の意見を大事にして、解決できるよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日のバイタル測定、排便、排尿のチェック、異常時は看護師に連絡、必要時主治医や家族等に連絡し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬剤情報は毎回綴じて参考にしてている。 ・新しい薬の開始時は、申し送りで副作用等に気をつけている。 ・状態の記録を残している ・薬についての研修を定期的に行っており、今までに誤薬などない。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・3日以上は便秘しないようにチェックし、排便コントロールをしている。 ・食事には、繊維の多い野菜や乳製品を取り入れ、日々、便秘の予防を心がけている。 ・毎日、室内歩行や季節によって散歩などをして、体をうごかすことをつづけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・食後は、歯磨き、うがい、口腔内の確認をしている。 ・夜は義歯の管理を行っている。 ・食前には、口腔体操を行っている。 ・必要に応じて歯科医師による、口腔ケアの支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残食はほとんどない</li> <li>・定期的に体重測定を行っているが、大きな増減はみられない。</li> <li>・採血の結果、栄養状態も良好である。</li> </ul>		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いうがいの徹底、入浴時の皮膚の観察、寝具の清潔保持の徹底、インフルエンザの予防接種。</li> <li>・肺炎球菌ワクチンを家族の了解のもと進めていきたい。</li> <li>・毎年、利用者・職員ともインフルエンザ予防接種を行う。</li> <li>・外部研修の参加・内部研修を通して意識向上をはかっている。</li> </ul>	○	・現在、インフルエンザ対策として介護職員にマスクの着用と湿度管理を徹底している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の商店から新鮮な食材を配達してもらっている。</li> <li>・夏場は、生ものを止めて、できるだけ火を通した物を提供している。</li> <li>・料理を作る量は、一回かぎりで見えないような量の調理をしている。</li> <li>・全体会にて、食材・台所備品の取扱いマニュアルを全職員で作成し意識向上をはかっている。</li> </ul>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関や裏口から車椅子での出入りができる施設構造であり、また周囲を整備し安心・安全な施設であるようにしている。</li> <li>・玄関周りにプランターなどに花を、庭にはくるみの木を植え芝生をはり、親しみやすい環境にしている。</li> <li>・玄関よりホーム周りを桜を植えているので利用者の方々も春を楽しみにされています。</li> </ul>		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事・10時のお茶、15時のおやつ時には、リビング内にふさわしい音楽を流している。</li> <li>・フローター・廊下には、天井からやさしい光が入るようにしている。</li> <li>・リビング・フローター・居室の窓は、大きくとり風通しもよくホームにいても季節を感じれるようにしている。</li> </ul>	○	・現在、季節の花や花瓶など行動障害が活発な方がいらっしゃるので飾れない。(危険に繋がる物)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リビングやホールにいろいろな座りやすいソファーや椅子を配置し、体調にあわせて使用している。</li> <li>・居室が自由に出入りが出来るので、利用者同士で話を楽しまれている方が多くいる。</li> <li>・好みのテレビ鑑賞が出来る様に、テレビを2台用意している。</li> </ul>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家庭から使い慣れたダンス・座椅子・カレンダー・写真を持ち込まれている。 ・夜間帯には、居室前に介護職員が待機トイレの支援や、喉が渇いた時の水分補給が安心して出来る様工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・温度計・湿度計を使い室温管理に気を付けている。ホーム全体にエアコンで温度調整がされている。 ・換気についても、利用者の状態を考慮しながら必ず行っている。・暖房を使用する際は、必ず加湿器を使用し健康管理に気をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホーム内には、フローア・廊下・トイレ・浴室など生活のスペースに手スリを設置している。車椅子などを使用することを考慮し十分なスペース作りをしている。 ・洗面道具・靴箱など利用者が、出来る限り自立して取り出し使用できる様に考慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・トイレの入口には、わかりやすいように表示してある。 ・家庭で使われていた、ダンス・椅子などを持ち込まれ、レクリエーションと一緒に作成した粘土細工を表札にしている。 ・昼間に主に使うトイレ・洗面所は、ホール中央に設置してある。夜間に使うトイレ洗面所は居室スペースの真中にあり安全に使いやすくしている。	○	・これからも、一人ひとりの残存機能に応じた支援をしていき、自立生活に向けた取り組みを心掛けていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・中庭には、芝生をはり天候のよい時には外にでて日光浴・気分転換をおこなっている。 ・芝生の周りには、ベンチを置き寛げるように配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない



項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/> ②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/> ③たまに
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/> ①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/> ②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/> ③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="checkbox"/> ②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="checkbox"/> ②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 施設内は、明るく清潔感があり広々として気持ちよい。あたたかい雰囲気がある。
- 個々に応じたケアプランに添って介護が行われている。
- 周りが畑に囲まれて環境がとても良い。
- 笑顔を絶やさず、利用者の方々の心が安らぐ様努めている。
- 毎日の食事には、新鮮な材料を使用し、バランスの良さを考えながら食事を提供している。
- 常時、利用者寄り添った姿勢がある。
- 職員同志で意見交換をして、利用者の個性を尊重した介護を心掛けている。
- 一対一の入浴体制をとっている。職員と利用者のコミュニケーションの場となっている。事故防止に十分配慮してケアしている。
- 衛生管理に気を付け、全職員が周知徹底し利用者に快適な生活が送れるように支援している。